

**【兵庫県新温泉町】 端末整備・更新計画**

		令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
①	児童生徒数	740人	709人	660人	642人	597人
②	予備機を含む整備上限台数	851台	0台	0台	0台	0台
③	整備台数 (予備機除く)	843台	0台	0台	0台	0台
④	③のうち基金事業によるもの	843台	0台	0台	0台	0台
⑤	累積更新率	100%	100%	100%	100%	100%
⑥	予備機整備台数	103台	134台	183台	201台	246台
⑦	⑥のうち基金事業によるもの	103台	134台	183台	201台	246台
⑧	予備機整備率	12.2%	15.9%	21.8%	23.8%	29.2%

**【端末の整備・更新の考え方】**

- GIGA スクール構想第1期で整備した端末も、5年間の積極的活用及び経年劣化が進んでいるため、令和7年度に端末の更新を行う。
- 更新にあたっては、第1期の整備においてOSのアップデートが通信障害の要因となり、児童生徒の学習に影響があったため見られたため、OSをChrome OSへ変更する。
- 予備機は、指導者用端末としても活用する。

**【更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について】**

- 対象台数 : 998台
- 処分方法
  - ・使用端末を各校の校務用端末として再利用 : 50台
  - ・小型家電リサイクル法の認定業者に再使用、再資源化を委託 : 948台
- 端末データの消去方法
  - ・処分事業者へ委託

**【スケジュール】**

- 令和7年6月 共同調達で選定された業者と契約
- 令和7年10月 新規購入端末の導入及び稼働
- 令和8年3月 使用済み端末の処分業者への引き渡し

【兵庫県新温泉町】 ネットワーク整備計画

1 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合（％）

○ 令和6年度に実施したネットワークアセスメントの結果

・ルーター直下測定の平均値

	学校	児童生徒数	推奨帯域(Mbps)	インターネット出口速度(Mbps)
1	温泉小	101	216	624.5
2	照来小	50	108	663
3	浜坂東小	36	108	662.5
4	浜坂西小	57	108	669.5
5	浜坂南小	69	161	714.5
6	浜坂北小	204	377	686
7	夢が丘中	111	216	730
8	浜坂中	207	377	687

8校とも文科省が示す推奨帯域に比較して、十分な速度となっている。

・代表教室での速度調査の結果（代表教室 1F、2F、3F）

	学校	推奨速度(Mbps)	1F(Mbps)	2F(Mbps)	3F(Mbps)
1	温泉小	80	109.5	109.5	107.5
2	照来小	80	111	93.25	93.2
3	浜坂東小	80	110.5	110	—
4	浜坂西小	80	109.5	93.45	110
5	浜坂南小	80	94	88	106.5
6	浜坂北小	80	110	108.5	101
7	夢が丘中	80	110	109.5	108.5
8	浜坂中	80	107	109	109.5

8校とも1クラス40名換算した場合でも、十分な速度となっている。

○ 必要なネットワーク速度が確保できている学校の割合 : 100%

2 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

- 令和6年度のネットワークアセスメントで、すべての小中学校が必要なネットワーク速度が確保できていることを確認している。
- 今後は、端末更新後の令和8年度にネットワークアセスメントを実施し、推奨速度が確保できているかどうか調査を行う。
- ボトルネック等が見つかった場合は、設備の更新を行う。

## 1 現状

### 【統合型校務支援システムの活用】

- 校務支援システムは、平成28年10月に浜坂地区4小学校に、平成30年10月に温泉地区2小学校にオンプレミスで導入し、活用していた。
- 令和4年1月に、町内全小中学校にクラウドで導入し現在に至っている。
- 現在利活用している校務支援システムは、以下の機能を有している。  
【グループウェア】（ローカルメール、掲示板、スケジュール、施設予約、ネットフォルダ 等）  
【出欠席管理】【成績管理】【児童生徒名簿管理】【通知表】【指導要録】【進路書類】【学校間連携】  
【校務共通管理】【教職員管理】
- すべての学校でこの機能を活用し、校務のデジタル化が進みつつある。

### 【学校と保護者間のデジタル化】

- 学校からの保護者への連絡には、すべての小中学校で情報共有・連絡ソフトを使い、一斉送信している。
- 一部の学校では、欠席連絡をWebで行っている。

### 【教職員と児童生徒間のデジタル化】

- 学習活動端末支援Webシステムを活用して、授業のデジタル化も進んでいる。
- デジタルドリル教材を導入し、児童生徒の個別最適な学びの場を提供している。

## 2 次世代校務デジタル化に向けた環境整備について

令和7年度の第2期GIGAスクール構想の端末更新を機に、Google for Educationの導入を行う。これにより、全教職員及び全児童生徒へアカウントを付与し、校務及び授業でのデジタル化が一層推進されるものと期待している。

また、ICT活用を苦手としている教職員も依然としてあるため、先進的なスキルアップの研修に加え、初心者向けに特化したような研修も実施してきながら、DXに向け底上げをおこなっていく。

## 【兵庫県新温泉町】 1人1台端末の利活用に係る計画

### 1 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現をめざす学びの姿

「新温泉町教育基本計画」の基本方針の一つに、「生きる力を育む教育の推進」を掲げている。予測困難な時代を切り拓く「生きる力」を育てるためにも、「主体的・対話的で深い学び」を通して「協働的な学び」と「個別最適な学び」の一体的な充実、探求的な学びの保障など、学校教育へのニーズは深い。これらを実現する手段として、今やICTの活用は不可欠となっている。

ICTスキルを身に付け、溢れる情報から児童生徒が自ら必要な情報を選択して収集し、社会の構築に向けて活用していく「情報活用能力」を身に付けた姿をめざしていく。

### 2 GIGA第1期の総括

GIGAスクール構想がスタートし、令和2年度に998台のGIGA端末、タブレットの充電保管庫、10Gbps通信に対応できる校内LANケーブルへ貼り換え、普通教室・特別教室・体育館に無線LANルーターの整備を行った。また、タブレットの持ち帰りの際にWi-Fi環境未整備の家庭に対応するため、貸出用モバイルWi-Fiルーターを100台購入し、各学校に備えた。

実質GIGAスクール構想がスタートした令和3年度と令和4年度の2年間には、「GIGAスクール構想 新温泉町モデル」事業を展開してきた。町内2校を指定し、姫路大学教育学部長 長谷浩也氏に新温泉町教育アドバイザーとして委嘱し、町の教育課題克服に向けて「デジタル教科書の活用」「学習活動端末システムの活用」「遠隔会議システムを活用した遠隔合同授業」「デジタルコンテンツの活用」を研究し、町内の全小中学校研究成果を発信した。

また、導入している学習活動端末支援Webシステムの授業での具体的な活用方法を学ぶため、令和4年度～令和6年度に毎年1回、メーカーのインストラクターを派遣してもらい、各学校を巡回して実技講習会を開催していった。

ICT環境は整えていったものの、導入したタブレット端末のOSのアップデートと端末のスペックによる授業中の通信停滞が多発し、タブレット端末の活用が煩雑に感じる教員が多くいたことも認めなかった。

### 3 1人1台端末の利活用方策

第1期での課題をふまえ、第2期の整備においてはデジタルコンテンツのクラウド利用への障害が出ないように使用するOSの変更を実施する。変更したOSのメーカーから提供されるサービスを、校務・授業で活用できるように、メーカーのインストラクターによる研修（講習会）を開催していく。

学習eポータル、学習支援ツールについては、第1期と同様のものを更新継続導入し、第1期で身に付けた教職員のスキルを活かしていく。

これまでのGIGAスクール運営支援センター事業に代わり、GIGA構想支援事業を契約し、引き続き学校で1人1台端末の利活用が促進されるよう支援を行っていく。